

「マイペンライ」は、タイ語で「なんでもないよ。気にしないで」の意味。アジアの人々のおおらかな心で交流が広がるようにとの願いを表現しました。

マイペンライ 通信

編集・発行 アジア保育教育交流推進実行委員会
(略称：大阪マイペンライ)

2010年8月10日

No. 80

TEL 072-645-7772

(森代表事務所)

FAX 06-6581-8536

(部落解放同盟大阪府連)

事務局 090-3948-8372 (稲葉)

9月にバンコクで出前保育研修事業を実施

2010年度国際ボランティア貯金寄附金事業の実施計画が承認される

2009年9月に申請した「バンコク出前保育研修事業」については、今年3月に国際ボランティア貯金寄附金の配分が決定し、5月に第1回の研修の実施を予定していましたが、バンコクを中心としたタイの政情不安によって延期した経過がありました。このたび、政情の安定化を受けて、再度第1回研修事業を9月に実施することなどの変更をした実施計画書を提出し、承認されました。

9月の第1回研修事業は、バンコクの計6ヶ所の保育園などで「ともにあそぶ公開保育」と「親子遊び公開保育」を実施し、その後、同じ場所で「公開保育実践研修会」を行うものです。この研修事業の講師には竹野起代さん(大阪市職民生支部)、稲葉清美さん(子ども情報研究センター)、西野伸一さん(今池子どもの家)の3人をお願いしており、すでに大阪で2回の打ち合わせを行ってきました。

日程は9月7日出発で、現地での現状視察や準備の後、9日から12日までが研修事業の本番で、13日には総括会議でまとめを行い、14日の早朝の帰国という強行スケジュールです。

この事業は「国際ボランティア貯金」寄附金の配分によって実施するものですが、配分金以外に約80万円の不足額が予想されており、引き続き、事業への寄付を呼びかけています。

「みなさんありがとう また会いましょう。」

招聘研修：タイ・ラオスのスタッフが各地で交流

今年の招聘研修は第18回を迎え、タイからはシーカーアジア財団からマリーニー・チャムナーンハットさんとピクン・プラーニスワナクンさん、ラオスからはシャンティ国際ボランティア会(SVA)のアレクサイ・パムアンさん、プッタナリー・タムマミサイさんをお招きし、10日に来日しました。同行・通訳はタイはさん松尾久美さん(SVAタイランド)、ラオスは、前半が八木沢克昌さん(アジア地域ディレクター)、後半が木村万里子さん(SVA東京事務所ラオス担当)です。

招聘したスタッフは7月10日に関西空港に到着し、11日のオリエンテーションの後、6日から各団体での受入研修・交流に入りました。受入いただいた組織は、大阪府教組は高槻市教職員組合と泉南地区(貝塚市)教職員組合、部落解放同盟大阪府連は生江支部と安中支部、自治労大阪府本部は大阪市職民生支部と摂津市職です。

17日にはマイペンライ茨木との交流、18日には、研修の合間の1日を大阪市従市民生活支部の案内で京都観光を楽しみました。19日は恒例の加藤啓子さんによる絵本ワークショップをいろいろ子育て相談センターで実施しました。



大阪府への表敬訪問であいさつする森代表

23日には大阪府および大阪市への表敬訪問を終え、同日夜、PLP会館で、研修・交流の報告会として多文化共生セミナーを開催しました。セミナーには受け入れた組織の代表の方々も含め約130名の参加があり、現地のNGOの活動紹介と今回の研修・交流の感想が報告がありました。ラオスのスタッフは、24日東京に向かい、タイのスタッフは24日の深夜便で帰国の途につきました。皆様のご協力に深く感謝いたします。

目次 ■「国際ボランティア貯金」寄附金配分事業・9月にバンコクで出前研修事業を実施進む(P1) ■
2010年度アジア招聘研修終わる(P1) ■アジア招聘研修スタッフからの感想(P1~P6) ■大阪府
教組泉南地区(貝塚市)教職員組合からの交流の便り(P3)

大阪での研修をふりかえって

【社団法人シャンティ国際ボランティア会 ラオス事務所 図書館事業課】
アレクサイ・パムアン

まず初めに、今回の招聘研修を企画してくださった大阪マイペンライ様、私たちのために視察の調整をしてくださった大阪府、大阪市、教職員組合、自治労大阪、部落解放同盟大阪府連の関係者の方々、そしてホームステイを受け入れてくださったみなさまに感謝申し上げます。



日本に来る前は、日本人がどのような生活を送っているのかほとんど知りませんでした。日本での滞在を通じて、日本には「助け合い」というとても素晴らしい文化があることを知りました。また、日本人同士が道で会うと「おはようございます」と礼儀たたく、とても穏やかに挨拶していることに感動しました。

今回、多くの小学校への訪問を通じて、日本の初等教育についても知ることができました。先生たちの姿勢にはとても感動しました。なぜなら全ての先生たちは子どもたちが素晴らしい人として育つように熱心に指導していたからです。特に、障がいを持った子どもたちや家庭内暴力によって情緒障害を負った子どもたちへの教育に対する配慮に感銘しました。また、学校内での子どもに対するさまざまな取り組みも興味深く視察しました。例えば、本の読み聞かせ、おもちゃ工作など。いろいろな技術やゲームのやり方について学ぶことができました。

日本には特定の人たちに対するいろいろな施設があることも知りました。放課後の保育活動では、親が働いている子どもたちがいろいろな活動をしていました。また、阿武山学園（児童自立支援施設）では、先生は親のように子どもたちに接している一方で、普通の学校と同じ教育を行っていました。子どもたちにとっては普通に接することがとても大切だと思いました。さらに児童院では、家族に問題がある子どもたちに対する教育が今の日本にとってはとても重要であることを知りました。そこには心理的カウンセラーが子どもたちのケアを行っていて、子どもたちの家庭環境や気持ち、どうしたら子どもたちが良くなるかを理解し、子どもたちの話を聞くことで子どもたちの心が開いていくことを知りました。

自分が普段行っている活動でもある「図書館に関する活動」にも参加しました。日本の図書館システムやサービス、小学校を含んだ図書館同士のネットワークはとても素晴らしいと思います。移動図書館車もたくさんの小学校を訪問しています。全ての人たちが必要な情報を得られるためにどの図書館にもたくさんの蔵書がありました。公共図書館、小学校の図書室などを訪問し、図書館のサービスについて多くのことを知ることができました。私は図書館事業の担当なので、日本の図書館での活動についていろいろ学んだことをラオスに戻ってからの活動のなかで活かしていきたいと思います。例えば、本の読み聞かせの手法を取りいれたり、月ごとに人気のある絵本のカバーの絵を子どもたちが書いて壁に張ることや、図書館同士のネットワークの構築などです。

日本のNPOなどの市民団体を通じて日本の社会が抱えている問題や、NPOがどのように問題を抱えている人々を支援しているかについても学ぶことができました。例えば、自分のことを自分ひとりではできない高齢者の人たちに対して、絵本ワークショップで（左端が後半通訳をお願いした木村さん）食事や宿泊など生活面の支援や、保険の手続きを行っていることを知り、人々は社会の一員として互いに助けあって生きているのだということを実感しました。

生江地区ではいくつかの施設を訪問しましたが、中でも障がい者に対して、就業支援などの自立支援をしているところが興味深かったです。高齢者に対しての特別な施設はラオスには無いので驚きました。地域のなかで互いに助け合い、上手にコミュニケーションを図りながら、子どもと大人、男性



と女性、高齢者と若者、みんなが1つの大きな家族として暮らしていることに感動しました。また、ここでは、料理を一緒につくったり、遊んだりといった子どもたちとの交流がとても楽しかったです。

最後に、訪問させていただいた全てのみなさまに感謝いたします。私たちに対して、いつもあたたかい歓迎をしていただきました。食事や宿泊についても気遣っていただき、たくさん美味しいものをいただき、とても快適に過ごすことができました。休日には、大阪や京都のいろいろな見所に連れて行っていただいたり、お酒の試飲なども思い出深い体験でした。あらためて、受け入れてくださった全ての方々に感謝いたします。コープチャイ（ラオス語：有難うございました）。

大阪での研修をふりかえって 【社団法人シャンティ国際ボランティア会 ラオス事務所教育支援事業課】 プッタナリー・タムマミサイ

日本に来るのは初めてであり、今回の研修ではいろいろなことが印象深く、とても楽しく、そして自分の人生のなかでとても素晴らしい経験となりました。訪問した全ての場所で、みなさんが家族のようにいつも迎えてくださったり、全てのことに配慮してくださったお陰です。今回の研修では、大阪マイペンライ様、自治労大阪府本部様、貝塚市の泉南地区教職員組合様、部落解放同盟大阪府連生江支部様をはじめ、みなさんから多くのことを学ぶことができ、日本の文化・社会、日本人の生活、日本の小学校、そして日本の幼稚園や図書館、日本の施設やセンターでの活動など日本についてたくさん知ることができました。

滞在を通じて日本の文化や日本人の生活についても学ぶことができました。日本食はとても彩りが美しく、美味しくいただきました。日本人はとても親切で心があたたかく、フレンドリーで、お互いの結びつきがとても強いということを訪れた全てのところで感じることができました。

大阪府教組泉南地区（貝塚市）教職員組合からの交流の便り

子どもたちとの交流は、ハート交流館（貝塚市青少年人権教育交流館）、貝塚東小5年生、貝塚中央小3年生の3カ所でおこないました。



ハート交流館では、オイさんからプレゼンテーションでラオスの位置、文化、学校の様子についてお話をききました。子どもの仕事として『水汲みが日課』であることや学校が小屋のような建物であることに驚いている子がいました。

貝塚市立東小学校、貝塚市立中央小学校では、アレックさんが中心になって、ラオス語での「大きなかぶ」を読み聞かせしてくださいました。アレックさんは演技を交えての読み聞かせに、子どもたちも大喜び。楽しいひとときを過ごすことができました。（写真）



質問コーナーでは、「ラオスの夏休みは？」とか「夏休みの宿題は？」などの質問が出て、「夏休みは6～8月の3ヶ月」で「宿題はなし」という回答だったので、子どもたちからは「いいな」「ラオスに行きたいな」という声がかかれました。しかし「ラオスは6～8月雨期であり、田植えの時期。子どもも労働力として家族といっしょに働かねば生きていけない」というお話をきいて、子どもたちの表情もすっかりひきしまっていたのが印象的でした。



中央小でのお礼のリコーダー演奏も、お二人とも非常に喜んでおられました。

貝塚市民図書館にも訪問しました。アレックさんは、移動図書館スタッフなので、ひまわり号には、非常に感心しておられました。また、オイさんも学校建設スタッフだけに、本の豊富さを非常にうらやましく思っておられました。少しでもラオスの子どもたちに絵本をプレゼントしたいと思います。

お二人とも「日本の文化」にも非常に関心が高いこともあって、水間寺にもご案内しました。本堂の瓦屋根や三重の塔、厄除け橋の写真は何枚も撮っておられました。

また、ラオスでは「占い」はあっても「おみくじ」というのは珍しかったようで、お二人ともおみくじに一喜一憂していました。ちなみにオイさんは「大吉」だったので、子どもにかえったようにはしゃいでいました。

ラオスでは学校教育支援の活動にたずさわっているので、訪問したなかで教育に関わる部分や子どもたちとの触れ合いからたくさんのことを学びました。日本の子どもたちはとてもかわいくて、良い友達として接してくれ、しつげがしっかりされている印象があります。ですから、子どもたちは将来、とても立派な大人に育つのではないかと思います。また、日本の小学校では図書館や障がいを持つ子どもたちのためのスペースなどの設備も充実してたいへん快適な感じです。子どもたちは自分たちが使っている教室を掃除し、教室の後ろのロッカーにそれぞれの通学カバンがきちんと入れられているなど、みんなが学ぶ場所として学校が大切に使われていることを実感しました。こういった公共心や協力することについての姿勢をもつことは、大人になってからも重要なことではないかと思います。

そして、日本の先生たちはとても熱心で、いつも子どもたちが学んだことを理解しているかなど、常に子どもたちの教育に対して配慮しています。だから子どもたちと先生たちの距離が近く、子どもたちが安心して心を開いているのだと思いました。

教育現場以外にも、多文化共生セミナーや「手づくり絵本ワークショップ」で教えていただいた教材づくりでも多くの学びがありました。ラオスと同じような材料を使っているにもかかわらず、ラオスよりわかりやすい方法だったので、ラオスで行っている教員研修の内容に取り入れていきたいと思います。



また学校だけでなく、私たちの活動の1つでもある図書館のシステムについても学ぶことができました。それは全ての人たちにとってとても素晴らしく、重要なことです。なぜなら、全ての人たちは図書館で情報を得ることができるからです。また、図書館のなかに小さい子どもたちのスペースや0歳児から対象年齢別に本が整理されていることに感動しました。可能であれば、ラオスの図書館にも提案したいと思います。

さらに日本は、放課後の子どもたちのためのセンターや特別な場所が数多くあります。子どもたちにとって一緒に活動を行う場所があるのはとても良いことだと思います。加えて、高齢者のための施設、非行に走った子どもたちの自立をサポートするための施設、家庭に問題を抱える子どもたちをケアする施設など、私はこれらへの訪問を通じて、彼らを支援するための仕組みについて理解し、今の日本社会ではそういった活動がとても重要であることを知りました。また、NPOの活動視察を通じて、支援するための仕組みについて学ぶことができました。

最後に、全ての団体と全ての人たちに改めて感謝の気持ちを述べたいと思います。この研修で得た良い経験を、ラオスに戻ってから活かすことができるように頑張りたいと思います。有難うございました。

2010年度大阪マイペンライ招聘研修参加スタッフの感想（タイ）

マーリニー・チャムナンハット（ターイ）

【研修より得たこと】

① 共生保育について

高槻市にて、教組の皆さんとの交流会、北清水小学校の視察などから、まずは何らかの障害を持っているからと言って、できないと決めつけないこと、可能性を閉ざさないことが大事だと学んだ。友達と一緒に、活動参加をし、信頼できる友達、教員が増えることで社会に対する信頼度、自分の位置にも気付くこととなるのだということも教わりました。これらの考え方にはとても共感し、自身の保育園において苦心していた障害児への対応に活かしていきたい。

② 子育て支援の取り組みについて

高槻市および八尾市における子育て支援の取り組みを視察し、母と子が共に参加できる活動、あるいは母親、父親への研修会などの取り組みを知った。私の保育園においても、月に2回ほど、親子で参加できるような催しをしてみたいと強く思った。こ



れが、大阪での子育て支援センターでも強調されていたように保護者同士の子育てにおける意見交換・情報共有の場ともなるはずである。地域の保護者たちは仕事に精一杯で、子どもとの時間を思うようにとれずにいる。保育園がそのきっかけを提供することはとても有意義であり、親子のみならず保育士・保護者間の関係づくりにも貢献できると思う。私たちの財団には、教材・研修センターという大きなリソースがある。これを使い、保護者にアプローチがもっとできるのではないかと思う。特に廃材を使った工作については、保護者からの関心は高い。一度、ペットボトルのおもちゃを作った際、子どもは自分で作ったものなので愛着を持ち、最初は『ゴミを何にするの?』って不思議がっていた母親も子どもがペットボトルのおもちゃを使って遊んでいる姿を見て、園の活動が身近に感じられたと話してくれた。これが嬉しく感じた、ということがあった。帰国後、保育士仲間にも今回の研修成果を共有して、ぜひ積極的に実施していきたい。



③ 保育所・幼稚園の活動について

・高槻市の芥川幼稚園ここでは異年齢での部屋分けをしている。このことにより、年長児が年少児を教える、逆に年少児が年長児を真似ることによりお互いにいい効果があるということを知った。実際に3,4人のグループに分かれての遊び(鍋なべそこ抜けなど)に参加したが、年齢の違う子どもたちが自然に助け合っているのが見て取れ、とても興味深い試みだと感じた。また、毎日の活動が表になっており、給食係など、班ごとに毎日の活動の役割が決まっていることによって、グループの中における責任感が生まれる。これらは、私の保育園においても、応用して活用していけるように思う。

・摂津市の正雀保育所においては、誕生日の活動に参加させて頂き、その月の誕生日の子どもたちがうれしそうにいきいきとしているのを見た。保育士、友達から祝われるということが自分自身を誇らしく思うことにつながる重要な活動だと感じた。

④ 最後に

研修で学んだことは、全て私の今後の活動に活かせるものばかりだと思っています。この機会を頂いたことを心より感謝します。また、研修の内容だけでなく、受入れ体制の素晴らしさに感動をしました。心からの歓迎を受けていることを身にしみ感じていた2週間でした。どちらの受入れ団体においても、幹部の方が対応くださることに恐縮をしました。活動に直接関係のない文化面においても多くを学びました。京都への観光では、美しい日本の文化にふれました。また、頂いたお食事もすべて、日本の長所を表すようなものであり、皆さんの私たちを喜ばしてあげようとお気持ちが伝わってくる嬉しいものでした。大阪マイペンライを始め、高槻市教組、摂津市職、解放同盟安中支部、そして、大阪市従の皆さん、本当にありがとうございました。



2010年度大阪マイペンライ招聘研修参加スタッフの感想(タイ) ピクン・プラーニースワナクン(ノン)

【研修により得たこと】

① 読書推進の活動について

摂津市にて学童保育を訪問した際に参加した遊び『お店屋さんごっこ』からヒントを得られた。この遊びは、小学1~3年生が8人ほどのグループに分かれて、各グループが釣り屋さん、輪なげ屋さんとなり、メンバーは店番と他の店のお客さんの役割を順番にしていく。スタッフ3人が約50人の子どもたちの活動をみているが、ゲームの最中はスタッフからの指示はなく、子どもたちが主体的にゲームを運営していた。楽しそうに、かつ、ルールを守って取り組んでいる子どもたちの様子に関心し、課題であった読書推進に必要なことを学んだ。重要なことは、子どもたちの主体性を活かすこと。自分の役割としては、本を読みなさい、ということではなくて、本の楽しさに気付く、出会える、活動を提供することなのだと思わされた。

② 絵本について

加藤啓子さんによるワークショップを受けて、多くを学ばせて頂いた。子どもは絵本の絵を見つめていること、を改めて教わった。たとえば、子どもが絵を読むペースに合わせてページを開いていくこと、次のページに対する期待感を膨らませておいて、開くことで子どもの楽しみが増すことなど、とても重要だと感じた。今後、うまく読むことでなく、子どもと楽しみながら読んでいきたいと思えた。

③ 地域住民とのつながりについて



高槻市、八尾市において、子育て支援の取り組みを視察した。特に、『カンガルーの森』では、実際の利用者が多くいらっしゃる時間帯であり様子がよくわかった。乳幼児と母親が設置されている絵本およびおもちゃで遊んでおり、スタッフは言葉を交わしたり、遊びによっては手を貸したりという程度の関わり方をしている。親子が自然に関係づくりのできる場所の提供をしていることが見て取れた。わたしの図書館でも、若い母親の利用はかなり多く、今後、地域との関係づくりの第一歩として母親と子どもの参加できるコーナー設置に取り組んでみたい。

④ 障害児の活動参加について

私の図書館を利用している障害児との接し方に悩んでおり、関連施設への視察を希望していた。高槻市、八尾市において障害者支援の施設を訪問させて頂き、まずは、本人としっかり向き合うことだと学んだ。特に、八尾市において訪問させて頂いた障害者センターにおいて、1人の女の子と触れあったことは大きなきっかけとなった。言葉が分からないけれども何とか分かろうとして気持ちを察しようとしたことから、気持ちが通じたように感じた。今後、言葉の意味がわかりあえなくても、本人の気持ちをまずは受け止め、向き合うことに努めていきたい。また、健常児、障害児とも一緒に参加できる活動をすることができるということを、実際の学校、保育園の現場から学んだ。

② 最後に

初めての飛行機、外国に緊張でいっぱいだった初日から、大阪マイペンライさんを始め、受け入れて頂いた多くの皆さんの笑顔に支えられた研修でした。常に健康を気遣って頂いたり、時には面白いことをして笑わせてくれたり、皆さんの温かさに包まれていたことをつくづく感じます。そして、各施設で出会った子どもたちにも多くの感動をもらいました。特に、給食を一緒に食べた子どもたち。正雀保育所では食べられないのではと心配した女の子が私のチキンライスと自分の海老フライを交換してくれ、北清水小学校では、枝豆の皮をむいてくれる小学1年生の男の子がいました。

マイペンライさん、高槻市教組、摂津市職、解放同盟安中支部、そして、大阪市従の皆さん、今回のご対応に心より感謝いたします。研修で得たこと、感動したことを今後の活動に活かしてまいります。そして、タイの子どもたちに、日本の子どもたちのことを話してあげようと思っています。今後とも、どうぞよろしくお願ひいたします。

会員（団体・個人）の皆さんへ 会費納入のお願い

当会の活動は皆さんの会費で支えられています。2010年度の会費の納入をお願いします。（複数年の未納がある場合は分割可）

宛名シールの名前の横の数字がすでに納入いただいている年度です。郵便振替や銀行振込でお振込みください。個人の方は年間3000円、団体は年間10000円の納入をお願いします。

郵便振替 **口座番号 00910-4-18125 加入者名 アジアの保育教育交流推進実行委員会**

銀行口座 **りそな銀行 桜川支店 普通預金 口座番号 2100152**

口座名義 アジア保育教育交流推進委員会

引き続き「国際ボランティア貯金」配分金事業への寄付も募集しています。ご協力をお願いします。